

科目名 (英)	救急症候・病態生理学Ⅰ (Emergency symptoms・PathophysiologyⅠ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	救急救命士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	45時間 (3)	開講区分 曜日・時間	前期 月曜日 2・3時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 救急救命士として、当校および大学等で長年教育に携わっている教員が授業を担当する。様々な症候がなぜ起こるのか、すなわち、身体機能の異常がどのような原因で起こっているのかを理解することが、病院前救護の現場活動(観察、判断、処置、搬送)を進める上で重要になる。本科目を学ぶ上で、関連疾患についての知識も必要になるため、疾病救急医学と並行して学習する必要がある。また、本科目で学んだ知識をシミュレーション実習で応用し、「臨床推論」に役立ててほしい。							
【到達目標】 呼吸不全・心不全・ショック・重症脳障害・心肺停止の概念を理解できる。 呼吸不全・心不全・ショック・重症脳障害・心肺停止を引き起こす主な疾患と、疾患別の随伴症候を列挙できる。 呼吸不全・心不全・ショック・重症脳障害・心肺停止の原因に応じた対応や医療機関選定の判断ができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 救急救命士標準テキスト改訂第10版 出題分野別国試問題・解説集A・B問題編 出題分野別国試問題・解説集C・D問題編				【授業外における学習】 各単元に関わる「構造と機能」を復習すること。 各単元で出てくる「疾患」について予習すること。 「救急救命士標準テキスト」を使用し、関連ページを読み込むこと。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1・2	【授業単元】呼吸不全 【授業形態】講義 【到達目標】 呼吸不全の定義と概念について説明できる 低酸素血症の発症機序を説明できる 高二酸化炭素血症の発症機序を説明できる 換気障害の種類について説明できる			17・18	【授業単元】重症脳障害 【授業形態】講義 【到達目標】 脳ヘルニアの種類と進展に伴う所見の変化を説明できる 特殊な意識障害について説明できる		
3・4	【授業単元】呼吸不全 【授業形態】講義 【到達目標】 呼吸不全の定義と概念について説明できる 低酸素血症の発症機序を説明できる 高二酸化炭素血症の発症機序を説明できる 換気障害の種類について説明できる			19・20	【授業単元】心肺停止 【授業形態】講義 【到達目標】 心肺停止の定義と概念について説明できる 心肺停止に至る病態と原因について説明できる 心肺停止の心電図分類について説明できる 心肺蘇生中の循環動態について説明できる		
5・6	【授業単元】心不全 【授業形態】講義 【到達目標】 心不全の定義と概念について説明できる 心不全の病態生理について説明できる 心不全の症候について説明できる 心不全の種類について説明できる			21・22	【授業単元】心肺停止 【授業形態】講義 【到達目標】 心拍再開を示唆する所見について説明できる 心拍再開後の病態について説明できる		
7・8	【授業単元】心不全 【授業形態】講義 【到達目標】 心不全の定義と概念について説明できる 心不全の病態生理について説明できる 心不全の症候について説明できる 心不全の種類について説明できる			23	【授業単元】定期試験(全範囲)、解答解説 【授業形態】講義 【到達目標】		
9・10	【授業単元】ショック 【授業形態】講義 【到達目標】 ショックの定義と概念について説明できる ショックの種類について説明できる 各ショックの原因疾患について説明できる 各ショックの発症機序について説明できる						
11・12	【授業単元】ショック 【授業形態】講義 【到達目標】 各ショックの循環動態について説明できる 各ショックの症候について説明できる 各ショック傷病者に対する現場活動を説明できる						
13・14	【授業単元】中間試験(呼吸不全・心不全・ショック)、解答解説 【授業形態】講義 【到達目標】						
15・16	【授業単元】重症脳障害 【授業形態】講義 【到達目標】 重症脳障害の定義と概念について説明できる 重症脳障害の発症機序について説明できる 一次性脳病変と二次性脳病変の違いを説明できる 頭蓋内圧亢進の機序・症候・因子について説明できる			【評価方法について】 本科目の評価は試験(80点)とレポート点(20点)の合計100点満点で評価する。試験は中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計点に0.8をかけたものが試験点となる。試験は五択問題と記述問題を合わせたものである。レポートの課題内容、提出要領については授業内で告知する。レポートは減点方式をとる。誤字・脱字などがあればその都度、1点ずつ減点していく。また、提出要領に沿わない内容の場合は5点減点、提出期限を守らないものは0点とする。評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】							

科目名 (英)	救急症候・病態生理学Ⅱ	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
	(Emergency symptoms・PathophysiologyⅡ)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	45時間 (3)	開講区分 曜日・時間	前期 木曜 1~2時限
学科・コース	救急救命士科						
【授業の学習内容と心構え】 消防機関における消防・救急業務において、救急救命士として実務・事務に携わってきた教員が、様々な症候や病態生理に基づき、迅速かつ確かな判断及び処置を実施出来る救急救命士を養成するため、現場経験を踏まえた授業を実施する。 専門職である救急救命士が個人・チームとして、傷病者のために何が必要であるかを各々が常に考えながら、受講してほしい。							
【到達目標】 ・自覚症状＝傷病者本人が自覚する異常(症状)と他覚所見＝他者によって観察される異常(徴候)の2つの側面を生理学と関連付けて理解し、説明できる。 ・症候学と病態生理学がシミュレーション実習と直結することを踏まえ、個人・チームそれぞれの観点から現場活動と関連付けて説明することができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 ・改訂第10版 救急救命士標準テキスト ・出題分野別 国試問題 解説集				【授業外における学習】 テキスト該当範囲の不明な語句、文章と資料は予め調べて授業に臨むこと。			
回 授 業 概 要				回 授 業 概 要			
【授業単元】呼吸困難① 5/9 【授業形態】講義 1~2 【到達目標】 (P511~513) 呼吸困難をきたす疾患の症状・徴候を理解し、説明できる。				【授業単元】胸痛② 7/4 【授業形態】講義 17~18 【到達目標】 (P524~525) 胸痛をきたす疾患の症状・徴候を理解し、説明できる。			
【授業単元】呼吸困難② 5/16 【授業形態】講義 3~4 【到達目標】 (P513~515) 呼吸困難をきたす疾患を現場活動と関連付けて理解し、説明できる。				【授業単元】動悸① 7/11 【授業形態】講義 19~20 【到達目標】 (P526~527) 呼吸困難をきたす疾患を現場活動と関連付けて理解し、説明できる。			
【授業単元】喀血① 5/23 【授業形態】講義 5~6 【到達目標】 (P516~517) 喀血をきたす疾患の症状・徴候を理解し、できる。				【授業単元】動悸② 7/18 【授業形態】講義 21~22 【到達目標】 (P527~528) 呼吸困難～動悸を理解し、適度な速さで解答を導くことができる。			
【授業単元】喀血② 5/30 【授業形態】講義 7~8 【到達目標】 (P517~518) 喀血をきたす疾患を現場活動と関連付けて理解し、説明できる。				【授業単元】定期試験、解説 【授業形態】試験 7/25 【到達目標】 23 科目全範囲について、適度な速さで解答を導くことができる。			
【授業単元】一過性意識消失と失神① 6/6 【授業形態】講義 9~10 【到達目標】 (P519~520) 失神をきたす疾患の症状・徴候を理解し、説明できる。							
【授業単元】一過性意識焼失と失神② 6/13 【授業形態】講義 11~12 【到達目標】 (P520~521) 失神をきたす疾患を現場活動と関連付けて理解し、説明できる。							
【授業単元】中間試験 【授業形態】講義 6/20 【到達目標】 13~14 呼吸困難・喀血・一過性意識焼失と失神について国家試験レベルの問題を理解し、適度な速さで解答を導くことができる。							
【授業単元】胸痛① 6/27 【授業形態】講義 15~16 【到達目標】 (P522~523) 胸痛をきたす疾患を現場活動と関連付けて理解し、説明できる。				【評価について】 中間試験及び期末試験で100点満点の総合評価とする。 但し、遅刻及び欠席を加味し、上記から減点を行うものとする。 中間試験：学年成績の40% 定期試験：学年成績の60% 評価方法は学則規定に準ずる。			
【特記事項】 専用ノートを持参すること。							

科目名 (英)	救急症候・病態生理学Ⅲ (Emergency symptoms・PathophysiologyⅢ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	救急救命士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 月曜日 1・2時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】							
救急救命士として、当校および大学等で長年教育に携わっている教員が授業を担当する。様々な症候がなぜ起こるのか、すなわち、身体機能の異常がどのような原因で起こっているのかを理解することが、病院前救護の現場活動(観察、判断、処置、搬送)を進める上で重要になる。本科目を学ぶ上で、関連疾患についての知識も必要になるため、疾病救急医学と並行して学習する必要がある。また、本科目で学んだ知識をシミュレーション実習で応用し、「臨床推論」に役立ててほしい。							
【到達目標】							
各種症候(運動麻痺、めまい、腹痛、吐血・下血、腰痛・背部痛、体温上昇)の発症機序、原因疾患、緊急度・重症度の判断、現場活動について理解できる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
救急救命士標準テキスト改訂第10版 出題分野別国試問題・解説集A・B問題編 出題分野別国試問題・解説集C・D問題編				各単元に関わる「構造と機能」を復習すること。 各単元で出てくる「疾患」について予習すること。 「救急救命士標準テキスト」を使用し、関連ページを読み込むこと。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1,2	【授業単元】 運動麻痺 【授業形態】 講義 【到達目標】 運動麻痺の発症機序を説明できる 運動麻痺の分類と原因疾患について説明できる 運動麻痺の随伴症候について説明できる 運動麻痺の緊急度・重症度の判断、現場活動を説明できる						
3,4	【授業単元】 めまい 【授業形態】 講義 【到達目標】 めまいの発症機序を説明できる めまいの分類と原因疾患について説明できる めまいの随伴症候について説明できる めまいの緊急度・重症度の判断、現場活動を説明できる						
5,6	【授業単元】 腹痛 【授業形態】 講義 【到達目標】 腹痛の発症機序を説明できる 腹痛の原因疾患について説明できる 腹痛の随伴症候について説明できる 腹痛の緊急度・重症度の判断、現場活動を説明できる						
7,8	【授業単元】 中間試験(運動麻痺・めまい・腹痛) 【授業形態】 講義 【到達目標】						
9,10	【授業単元】 吐血・下血 【授業形態】 講義 【到達目標】 吐血・下血の発症機序を説明できる 吐血・下血の原因疾患について説明できる 吐血・下血の病態について説明できる 吐血・下血の緊急度・重症度の判断、現場活動を説明できる						
11,12	【授業単元】 腰痛・背部痛 【授業形態】 講義 【到達目標】 腰痛・背部痛の原因疾患について説明できる 腰痛・背部痛の緊急度・重症度の判断を説明できる 腰痛・背部痛の現場活動を説明できる						
13,14	【授業単元】 体温上昇 【授業形態】 講義 【到達目標】 体温上昇の発症機序を説明できる 体温上昇の病態について説明できる 体温上昇の分類と原因疾患について説明できる 体温上昇の緊急度・重症度の判断、現場活動を説明できる						
15	【授業単元】 定期試験(吐血・下血、腰部痛・背部痛、体温上昇) 【授業形態】 講義 【到達目標】			【評価方法について】 中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。試験は五択問題と記述問題を含めたものである。 評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】							

科目名 (英)	救急症候・病態生理学Ⅳ (Emergency symptoms・PathophysiologyⅣ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	救急救命士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 月曜日 2・3時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】							
救急救命士として、当校および大学等で長年教育に携わっている教員が授業を担当する。様々な症候がなぜ起こるのか、すなわち、身体機能の異常がどのような原因で起こっているのかを理解することが、病院前救護の現場活動(観察、判断、処置、搬送)を進める上で重要になる。本科目を学ぶ上で、関連疾患についての知識も必要になるため、疾病救急医学と並行して学習する必要がある。また、本科目で学んだ知識をシミュレーション実習で応用し、「臨床推論」に役立ててほしい。							
【到達目標】							
各種症候(意識障害、頭痛、痙攣)の発症機序、原因疾患、緊急度・重症度の判断、現場活動について理解できる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
救急救命士標準テキスト改訂第10版 出題分野別国試問題・解説集A・B問題編 出題分野別国試問題・解説集C・D問題編				各単元に関わる「構造と機能」を復習すること。 各単元で出てくる「疾患」について予習すること。 「救急救命士標準テキスト」を使用し、関連ページを読み込むこと。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 意識障害 【授業形態】 講義 【到達目標】 意識障害の原因について説明できる 意識障害の随伴症候について説明できる 意識障害の代表的な原因疾患について説明できる 意識障害の緊急度・重症度の判断、現場活動を説明できる						
2	【授業単元】 意識障害 【授業形態】 講義 【到達目標】 意識障害の原因について説明できる 意識障害の随伴症候について説明できる 意識障害の代表的な原因疾患について説明できる 意識障害の緊急度・重症度の判断、現場活動を説明できる						
3	【授業単元】 頭痛 【授業形態】 講義 【到達目標】 頭痛の発症機序について説明できる 頭痛の分類と原因疾患について説明できる 頭痛の発症状況・性状、随伴症候について説明できる 頭痛の緊急度・重症度の判断、現場活動を説明できる						
4	【授業単元】 頭痛 【授業形態】 講義 【到達目標】 頭痛の発症機序について説明できる 頭痛の分類と原因疾患について説明できる 頭痛の発症状況・性状、随伴症候について説明できる 頭痛の緊急度・重症度の判断、現場活動を説明できる						
5	【授業単元】 中間試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】						
6	【授業単元】 痙攣 【授業形態】 講義 【到達目標】 痙攣の病態について説明できる 痙攣の分類と原因疾患について説明できる 痙攣の随伴症候、判別について説明できる 痙攣の緊急度・重症度の判断、現場活動を説明できる						
7	【授業単元】 痙攣 【授業形態】 講義 【到達目標】 痙攣の病態について説明できる 痙攣の分類と原因疾患について説明できる 痙攣の随伴症候、判別について説明できる 痙攣の緊急度・重症度の判断、現場活動を説明できる						
8	【授業単元】 定期試験(全範囲)、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】			【評価方法について】 中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。試験は五択問題と記述問題を合わせたものである。 評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】							

科目名 (英)	疾病救急医学I (Disease Emergency Medicine I)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・コース	救急救命士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	90時間 (6)	開講区分 曜日・時間	
【授業の学習内容と心構え】							
消防機関における消防・救急業務において、救急救命士として実務・事務に携わってきた教員が、迅速かつ的確な判断及び処置を実施出来る救急救命士を養成するため、現場経験を踏まえた授業を実施する。 専門職である救急救命士が個人・チームとして、傷病者のために何が必要であるかを各々が常に考えながら、受講してほしい。							
【到達目標】							
・救急疾患のなかで重症度や緊急度の高い神経系疾患・呼吸系疾患・循環系疾患について、発生機序や症状を説明することができる。 ・神経系疾患、呼吸系疾患、循環系疾患の観察、判断そして処置を説明する事ができる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
・改訂第10版 救急救命士標準テキスト ・出題分野別 国試問題 解説集				テキスト該当範囲の不明な語句、文章や資料は予め調べて授業に臨むこと。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
5/13(月) 1~2 (P546~549)	【授業単元】疾病救急医学総論 神経系疾患① 【授業形態】講義 【到達目標】 救急現場で重要な神経系疾患を挙げ、それらの特徴について説明できる。			7/23(火) 20~22 (P581~586)	【授業単元】循環系疾患③ 【授業形態】講義 【到達目標】 救急現場で重要な循環器系疾患を挙げ、それらの特徴について説明できる。		
5/21(火) 3~4 (P549~554)	【授業単元】神経系疾患② 【授業形態】講義 【到達目標】 救急現場で重要な神経系疾患を挙げ、それらの特徴について説明できる。			7/29(火) 23	【授業単元】定期試験 【授業形態】試験 【到達目標】 科目全範囲について問題を理解し、適度な速さで解答を導くことができる。		
5/28(火) 5~6 (P554~557)	【授業単元】神経系疾患③ 【授業形態】講義 【到達目標】 救急現場で重要な神経系疾患を挙げ、それらの特徴について説明できる。						
6/4(火) 7~9 (P558~562)	【授業単元】呼吸系疾患① 【授業形態】講義 【到達目標】 救急現場で重要な呼吸器系疾患を挙げ、それらの特徴について説明できる。						
6/11(火) 10~12 (P562~566)	【授業単元】呼吸系疾患② 【授業形態】講義 【到達目標】 救急現場で重要な呼吸器系疾患を挙げ、それらの特徴について説明できる。						
6/25(火) 13~14	【授業単元】中間試験 【授業形態】試験 【到達目標】 神経系疾患・呼吸系疾患について問題を理解し、適度な速さで解答を導くことができる。						
7/2(火) 15~16 (P567~572)	【授業単元】循環系疾患① 【授業形態】講義 【到達目標】 救急現場で重要な循環器系疾患を挙げ、それらの特徴について説明できる。				【評価について】 中間試験及び定期試験による100点満点の総合評価とする。 但し、遅刻及び欠席を加味し、上記から減点をするものとする。 中間試験：学年成績の40% 定期試験：学年成績の60% 評価方法は学則規定に準ずる。		
7/16(火) 17~19 (P572~581)	【授業単元】循環系疾患② 【授業形態】講義 【到達目標】 救急現場で重要な循環器系疾患を挙げ、それらの特徴について説明できる。						
【特記事項】							
専用ノートを持参すること。							

科目名 (英)	疾病救急医学I (Disease Emergency Medicine I)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・コース	救急救命士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	90時間 (6)	開講区分 曜日・時間	後期 火曜日 3~4時限
【授業の学習内容と心構え】							
消防機関における消防・救急業務において、救急救命士として実務・事務に携わってきた教員が、迅速かつ的確な判断及び処置を実施出来る救急救命士を養成するため、現場経験を踏まえた授業を実施する。 専門職である救急救命士が個人・チームとして、傷病者のために何が必要であるかを各々が常に考えながら、受講してほしい。							
【到達目標】							
・救急疾患のなかで重症度や緊急度の高い神経系疾患・呼吸系疾患・循環系疾患について、発生機序や症状を説明することができる。 ・消化器系疾患、泌尿 生殖器系疾患、代謝 皮膚 筋骨角系疾患の観察、判断そして処置を説明する事ができる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
・改訂第10版 救急救命士標準テキスト ・出題分野別 国試問題 解説集				テキスト該当範囲の不明な語句、文章や資料は予め調べて授業に臨むこと。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
8/26 24-25 (P587~592)	【授業単元】消化器系疾患① 【授業形態】講義 【到達目標】 救急現場で重要な消化器系疾患の特徴を説明することができる。			11/18 40-41 (P617~621)	【授業単元】血液・免疫系疾患② 【授業形態】講義、単元小テスト(血液・免疫系疾患) 【到達目標】 救急現場で重要な血液・免疫系疾患の特徴を説明することができる。		
9/2 26-27 (P592~596)	【授業単元】消化器系疾患② 【授業形態】講義 【到達目標】 救急現場で重要な消化器系疾患の特徴を説明することができる。			11/25 42-43 (P622~626)	【授業単元】筋骨格系疾患① 【授業形態】講義、単元小テスト(筋・骨格系疾患) 【到達目標】 救急現場で重要な筋・骨格系疾患の特徴を説明することができる。		
9/23 28-29 (P597~601)	【授業単元】泌尿・生殖器系疾患① 【授業形態】講義 【到達目標】 救急現場で重要な泌尿・生殖器系疾患の特徴を説明することができる。			12/2 44 (P627~629)	【授業単元】皮膚系疾患① 【授業形態】講義、単元小テスト(皮膚系疾患) 【到達目標】 救急現場で重要な皮膚系疾患の特徴を説明することができる。		
9/30 30-31 (P601~603)	【授業単元】泌尿・生殖器系疾患② 【授業形態】講義 【到達目標】 救急現場で重要な泌尿・生殖器系疾患の特徴を説明することができる。			12/9 45	【授業単元】期末試験 【授業形態】試験 【到達目標】 科目全範囲について国家試験レベルの問題を理解し、適度な速さで解答を導くことができる。		
10/7 32-33 (P604~611)	【授業単元】代謝・内分泌・栄養系疾患① 【授業形態】講義 【到達目標】 救急現場で重要な代謝・内分泌・栄養系疾患の特徴を説明することができる。						
10/21 34-35 (P611~616)	【授業単元】代謝・内分泌・栄養系疾患② 【授業形態】講義 【到達目標】 救急現場で重要な代謝・内分泌・栄養系疾患の特徴を説明することができる。						
10/28 36-37	【授業単元】予備日 【授業形態】講義、演習 【到達目標】 消化器・泌尿 生殖器・代謝 内分泌 栄養系疾患についての授業内容を総合的に説明できる。						
11/11 38-39	【授業単元】中間試験 【授業形態】試験 【到達目標】 消化器・泌尿 生殖器・代謝 内分泌 栄養系疾患について国家試験レベルの問題を理解し、適度な速さで解答を導くことができる。			【評価について】 中間試験及び期末試験による100点満点の総合評価とする。 但し、遅刻及び欠席を加味し、上記から減点をするものとする。 中間試験：学年成績の40% 期末試験：学年成績の60% 評価方法は学則規定に準ずる。			
【特記事項】							
専用ノートを持参すること。							

科目名 (英)	疾病救急医学Ⅱ (Disease Emergency Medicine Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	救急救命士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60時間 (4)	開講区分 曜日・時間	前期 火曜日 1・2時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 救急医・小児科医として長きに渡り救急医療の臨床と消防の指導医として病院前救護に携わってきた教員により、社会に貢献できる救急救命士を養成するため救急感染症学、小児救急学、新生児救急学、分娩助産と周産期救急医学の専門的な知識と技術を得得するための授業を行う。救急救命士としてあらゆる傷病者・あらゆる疾病へ迅速に対応できるようになるため履修・修了が必須の講義であることを理解し、意欲をもって授業に臨んで欲しい。受講前には救急救命士標準テキストの該当部分を必ず熟読し、授業後はしっかりと復習すること。							
【到達目標】 救急救命士として感染症や小児、新生児、妊婦の傷病者に迅速かつ適切に救護行えるようになるための知識と技術を得得する。正常分娩と異常分娩の違いを理解し、適切な分娩助産が施行できるようになるための知識と技術を得得する。病院前での確実な感染対策が実施できるようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】 改訂第10版 救急救命士標準テキスト（へるす出版）				【授業外における学習】 講義前に救急救命士標準テキストの該当部分を必ず熟読しておくこと。また講義後はしっかりと復習をして知識を確実なものにしておくこと。不明点は休み時間や放課後等を利用して積極的に質問にすること。			
回	授 業 概 要	回	授 業 概 要				
1・2・3	【授業単元】 4/16 小児救急① 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 改訂第10版 救急救命士標準テキスト P.254, 349-350, 376-383, 644 - 657 小児傷病者の生理学的・解剖学的・心理学的特徴を理解し、初期対応を実践できるようになる。小児の心肺蘇生や気道異物の対処法を得得する。						
4・5	【授業単元】 4/30 小児救急② 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 改訂第10版 救急救命士標準テキスト P.644 - 657 小児によくみられる各種疾患の病態生理と初期対応を理解する。						
6・7	【授業単元】 5/14 感染症 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 改訂第10版 救急救命士標準テキスト P.868 - 880 1年生「病理・微生物学」で習得した「免疫・感染」の知識を深め、感染症に罹患した傷病者対応を安全に実施するための知識・技能を得得する。また代表的な感染症の疫学・病態・生理を把握する。						
8 中間試験	【授業単元】 5/21 中間試験 【授業形態】 試験 【到達目標】 国家試験方式で実施する中間テストにより、第1回～第7回で学んだ小児救急、感染症についての知識を再確認する。同日に試験問題の解説を行う。						
9・10	【授業単元】 6/18 周産期救急① 【授業形態】 講義 【到達目標】 改訂第10版 救急救命士標準テキスト P.415 - 418, 665 - 672 1年生「病理・微生物学」で習得した「ヒトの発生・成長」の知識を深め、正常妊娠の過程と異常妊娠を理解する。妊婦の解剖・生理を理解する。正常分娩と異常分娩を理解し、妊婦の傷病者に対して適切に対応するための基礎知識を得得する。						
11・12	【授業単元】 7/9 周産期救急② 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 改訂第10版 救急救命士標準テキスト P.415 - 418, 673 - 675 胎児と出生直後の新生児の解剖・生理学を学び理解する。新生児の救急蘇生法を習得し実践するための基礎知識を得る。妊婦の心肺蘇生について学び実践できるようになる。死産期帝王切開について理解する。						
13・14	【授業単元】 7/30 周産期救急③ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 改訂第10版 救急救命士標準テキスト P.415 - 418, 665 - 675 第9～12回で学んだ知識をもとに、プレホスピタルにおける正常分娩の助産と産後大出血および新生児仮死の救急対応を実践する。加えて妊婦の心肺停止に対する蘇生を得得する。						
定期試験	【授業単元】 8/1 定期試験 【授業形態】 演習 【到達目標】 国家試験方式で実施する定期試験により、第1回～第14回で学んだ妊娠・分娩と周産期救急疾患、感染症、小児疾患・小児救急についての知識を再確認する。同日に試験問題の解説を行う。	【評価方法について】 各講義毎に小テスト実施 または 問題演習課題を課し、中間評価に加える。また出席率、授業態度、宿題やレポート課題等により学年成績に加点または減点を加える。中間試験・定期試験は国家試験方式（マークシート）で実施する。					
【特記事項】 遅刻・欠席はせず、各授業前のテキスト熟読と授業後の復習を行うこと。 曖昧な点があれば、そのままにせず積極的に質問にすること。							

科目名 (英)	疾病救急医学Ⅱ (Disease Emergency Medicine Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・コース	救急救命士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60時間 (4)	開講区分	後期
【授業の学習内容と心構え】 消防機関における消防・救急業務において、救急救命士として実務・事務に携わってきた教員が、迅速かつ確かな判断及び処置を実施出来る救急救命士を養成するため、現場経験を踏まえた授業を実施する。専門職である救急救命士が個人・チームとして、傷病者のために何が必要であるかを各々が常に考えながら、受講してほしい。							
【到達目標】 ・眼、耳、鼻疾患を症状脳神経疾患など他疾患と区別できる。 ・高齢者の加齢による変化を踏まえ、主観的情報だけでなく客観的情報をもとに病態を説明できる。 ・精神障害を内因、外因、心因に分類し、特徴的な症状を理解するとともに、精神症状に応じた基本的な対応を説明できる。							
【使用教科書・教材・参考書】 ・改訂第10版 救急救命士標準テキスト ・出題分野別 問題 解説集				【授業外における学習】 テキスト該当範囲の不明な語句、文章や資料は予め調べて授業に臨むこと。			
回				回			
授 業 概 要				授 業 概 要			
【授業単元】 眼・耳・鼻の疾患① 8/29 【授業形態】 講義 16-17 【到達目標】 (P630~632) 2) 救急現場で重要な眼・耳・鼻の疾患の特徴について説明できる。							
【授業単元】 眼・耳・鼻の疾患② 9/5 【授業形態】 講義 18-19 【到達目標】 (P632~634) 4) 救急現場で重要な眼・耳・鼻の疾患の特徴について説明できる。							
【授業単元】 高齢者に特有な疾患① 9/19 【授業形態】 講義 20-21 【到達目標】 (P658~662) 2) 救急現場で重要な高齢者に特有な疾患の特徴について説明できる。							
【授業単元】 高齢者に特有な疾患② 9/26 【授業形態】 講義 22-23 【到達目標】 (P662~664) 4) 救急現場で重要な高齢者に特有な疾患の特徴について説明できる。							
【授業単元】 中間試験、精神障害① 10/3 【授業形態】 試験、講義 24-25 【到達目標】 (P676~679) 9) 眼・耳・鼻の疾患・高齢者に特有な疾患について救急現場で重要な精神障害の特徴について説明できる。 国家試験レベルの問題を理解し、適度な速さで解答を導くことができる。							
【授業単元】 精神障害② 10/10 【授業形態】 講義 26-27 【到達目標】 (P679~683) 3) 救急現場で重要な精神障害の特徴について説明できる。							
【授業単元】 精神障害③ 10/17 【授業形態】 講義 28-29 【到達目標】 (683~686) 86) 救急現場で重要な精神障害の特徴について説明できる。							
【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 試験 10/24 【到達目標】 30 科目全範囲について問題を理解し、適度な速さで解答を導くことができる。				【評価について】 中間試験及び定期試験による100点満点の総合評価とする。 但し、遅刻及び欠席を加味し、上記から減点をするものとする。 中間試験：学年成績の40% 定期試験：学年成績の60% 評価方法は学則規定に準ずる。			
【特記事項】 専用ノートを持参すること。							

科目名 (英)	外傷総論 (External Wound General Remakes)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	救急救命士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 火曜日 3－5時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 救急医・麻酔科医・小児科医として長きに渡り救急医療の臨床に携わり消防の指導医として病院前救護にも関わってきた教員により、社会に貢献できる救急救命士を養成するため外傷学の総論的な知識と技術を得得するための授業を行う。救急救命士としてあらゆる外傷傷病者へ迅速に対応できるようになるため履修・修了が必須の講義であることを理解し、意欲をもって授業に臨んで欲しい。受講前には救急救命士標準テキストの該当部分を必ず熟読し、授業後はしっかりと復習すること。							
【到達目標】 救急救命士としてあらゆる外傷傷病者に対し迅速かつ適切に救護行えるようになるための知識と技術を得得する。救急救命士を目指す者が「なぜ外傷を学ばなければならないか？」という命題を各自で考えて欲しい。							
【使用教科書・教材・参考書】 改訂第10版 救急救命士標準テキスト（へるす出版） JPTEC e-learning				【授業外における学習】 講義前に救急救命士標準テキストの該当部分を必ず熟読しておくこと。また講義後はしっかりと復習をして知識を確かなものにしていくこと。不明点は休み時間や放課後等を利用して積極的に質問に来ること。JPTEC e-learningを実施し修了証を期日までに提出すること。東京医薬看護学センター(JPTECプロバイダーコース)に学生タスクとして参加し、シミュレーション教育を通じて外傷救護の理解を深めること。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1・2	【授業単元】 4/18 外傷医学と外傷システム 受傷機転とエネルギー 外傷の分類 主な受傷機転(境界) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 改訂第10版 救急救命士標準テキスト P.687－701 外傷を定義し「防ぎ得た外傷死」について説明できる。本邦の外傷疫学・外傷死亡統計を理解する。高リスク受傷機転、ロードアンドゴー、トラウマバイパスについて説明できる。受傷機転や外傷分類を理解する。外傷に先行する内因性病態について理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3－5	【授業単元】 4/30 外傷の病態生理、ショック(境界) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 改訂第10版 救急救命士標準テキスト P.702－707、463－469 外傷に伴う生体反応について理解する。外傷死の三徴について説明できる。損傷の治癒過程について説明できる。外傷に伴うショックとその他のショックについて理解し分類できる。外傷傷病者に対する輸液の基本を理解する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6－8	【授業単元】 5/14 外傷の現場活動(境界) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 改訂第10版 救急救命士標準テキスト P.708－714 状況評価、初期評価、全身観察、重点観察、ロードアンドゴーの判断、搬送中の活動について理解し実践できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
定期試験	【授業単元】 5/28 定期試験 【授業形態】 演習 【到達目標】 国家試験方式で実施する定期試験により、第1回～第8回で学んだ外傷総論およびJPTEC e-learningについての知識を再確認する。同日に試験問題の解説を行う。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【評価方法について】 各講義毎にプレテスト and/or 小テスト実施、または問題演習課題を課し、学年評価に加える。中間試験は実施せず、JPTEC e-Learningの修了証提出と東京医薬看護外傷セミナー(JPTECプロバイダーコース)への学生タスク参加、小テスト・課題の総合成績を学年成績の40%に充当させる。出席率、授業態度、宿題やレポート課題等により、学年成績に加点または減点を加える。期末試験は国家試験方式、マークシートで実施し、学年成績の60%に充当させる。		
【特記事項】 遅刻・欠席はせず、各授業前のテキスト熟読と授業後の復習を行うこと。曖昧な点があれば、そのままにせず積極的に質問に来ること。JPTEC e-learningを実施のうえ期日までに修了証を提出すること。							

科目名 (英)	外傷各論	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
	(External Wound General Exposition)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	75時間 (5)	開講区分	前期
学科・専攻	救急救命士科					曜日・時間	火曜日 3・4時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 救急医・小児科医として長きに渡り救急医療の臨床に携わってきた教員と消防官・救急救命士として長きに渡り地域の救急医療に取り組んできた常任教員により、社会に貢献できる救急救命士を養成するため外傷学の専門的な知識と技術を習得するための授業を行う。救急救命士としてあらゆる外傷傷病者へ迅速に対応できるようになるため、外傷総論で学んだ内容を細部まで履修していく。必須の講義であることを理解し、意欲をもって授業に臨んで欲しい。受講前には救急救命士標準テキストの該当部分を必ず熟読し、授業後はしっかりと復習すること。							
【到達目標】 外傷総論で学んだ外傷学の基礎を、その各分野について詳細に学び外傷救護の活動に役立てる。 外傷傷病者を救うために必要な知識・技術を身に付ける。							
【使用教科書・教材・参考書】 改訂第10版 救急救命士標準テキスト (へるす出版)				【授業外における学習】 講義前に救急救命士標準テキストの該当部分を必ず熟読しておくこと。また講義後はしっかりと復習をして知識を確実なものにしておくこと。不明点は休み時間や放課後等を利用して積極的に質問に来ること。			
回	授 業 概 要	回 授 業 概 要					
1・2・3	【授業単元】 (6/18) 頭部・顔面外傷(境野) 【授業形態】 講義 【到達目標】 改訂第10班 救急救命士標準テキスト P.715 - 721, P.722-726 頭部・顔面について解剖学、生理学を復習し、外傷を理解する。同部位の外傷に対する適切な救護を実践できるようにする。						
4・5・6	【授業単元】 (6/25) 頸部外傷、総頸・絞頸(大越) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 改訂第10班 救急救命士標準テキスト P.722 - 726, 778 - 780 頸部について解剖学、生理学を復習し、外傷を理解する。同部位の外傷に対する適切な救護を実践できるようにする。総頸と絞頸の分類について理解し必要な現場救護活動を実践できる。						
7・8・9	【授業単元】 (7/2) 脊椎・脊髄外傷(大越) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 改訂第10班 救急救命士標準テキスト P.727 - 732 脊椎・脊髄について解剖学、生理学を復習し、外傷を理解する。同部位の外傷に対する適切な初期救護を実践できるようにする。						
中間試験	【授業単元】 (7/8) 中間試験と解説(大越) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 国家試験方式で実施する中間テストにより、第1回～第8回で学んだ外傷各論および外傷総論・JPTEC e-learningで学んだ知識を再確認する。						
10・11・12	【授業単元】 (7/9) 胸部外傷 (境野) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 改訂第10班 救急救命士標準テキスト P.733 - 738 胸部について解剖学、生理学を復習し、外傷を理解する。同部位の外傷に対する適切な初期救護を実践できるようにする。						
13・14・15	【授業単元】 (7/30) 腹部・骨盤外傷(境野) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 改訂第10班 救急救命士標準テキスト P.739 - 742, P.743 - 745 腹部・骨盤について解剖学、生理学を復習し、外傷を理解する。同部位の外傷に対する適切な初期救護を実践できるようにする。多発外傷の定義と対応を理解し実践できるようになる。						
定期試験	【授業単元】 (8/1) 定期試験と解説(大越) 【授業形態】 演習 【到達目標】 国家試験方式で実施する定期試験により、外傷総論・JPTEC e-learning・外傷各論 I で学んだ知識を再確認する。	【評価方法について】 出席率、授業態度、小テスト、宿題やレポート課題等により、学年成績の20%、中間試験により学戦成績の20%を評価し、これらを合算して中間評価(40%)とする。定期試験により学年成績の60%を評価する。					
【特記事項】 遅刻・欠席はせず、各授業前のテキスト熟読と授業後の復習を行うこと。曖昧な点があれば、そのままにせず積極的に質問に来ること。							

科目名 (英)	外傷各論 (External Wound General Exposition II)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	救急救命士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	75時間 (5)	開講区分 曜日・時間	後期 火曜日 3・4時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】							
救急医・小児科医として長きに渡り救急医療の臨床に携わってきた教員と消防官・救急救命士として長きに渡り地域の救急医療に取り組んできた常任教員により、社会に貢献できる救急救命士を養成するため外傷学の専門的な知識と技術を得るための授業を行う。救急救命士としてあらゆる外傷傷病者へ迅速に対応できるようになるため、外傷総論で学んだ内容を細部まで履修していく。必須の講義であることを理解し、意欲をもって授業に臨んで欲しい。受講前には救急救命士標準テキストの該当部分を必ず熟読し、授業後はしっかりと復習すること。							
【到達目標】							
外傷総論・外傷各論Ⅰで学んだ外傷学の基礎を、その各分野について詳細に学び外傷救護の活動に役立てる。外傷傷病者を救うために必要な知識・技術を身につける。救急救命士国家試験の約20～30%を占める外傷分野を得意にして得点源とする。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
改訂第10版 救急救命士標準テキスト（へるす出版）				講義前に救急救命士標準テキストの該当部分を必ず熟読しておくこと。また講義後はしっかりと復習をして知識を確実なものにしておくこと。不明点は休み時間や放課後等を利用して積極的に質問に来ること。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
16-18	【授業単元】 (9/24) 四肢外傷・多発外傷(境界) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 改訂第10版 救急救命士標準テキスト P.747-754 四肢について解剖学、生理学を復習し、外傷を理解する。同部位の外傷に対する適切な初期救護を実践できるようにする。多発外傷の定義と対応を理解し実践できるようにする。			28-30	【授業単元】 (10/29) 熱傷(境界) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 改訂第10版 救急救命士標準テキスト P.760 - 765 熱傷の病態生理を理解し、熱傷面積の算出方法を知る。熱傷の傷病者に対する適切な病院前救護が実践できる。		
19-21	【授業単元】 (10/1) 妊婦外傷(境界) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 改訂第10版 救急救命士標準テキスト P.759, 665-675 妊婦の解剖学的・生理学的な特性を理解し、それらの損傷に対して適切な病院前救護を実践できる。疾病救急医学Ⅱで学んだ妊娠・分娩と救急疾患や妊婦に対する心肺蘇生について復習する。			31-33	【授業単元】 (11/5) 化学損傷、電撃傷・雷撃傷(境界) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 改訂第10版 救急救命士標準テキスト P.766 - 770, P.772 - 777 化学損傷の病態生理を理解し、除染・ゾーニングや傷病者に対する適切な病院前救護が実践できる。電撃傷・雷撃傷について理解し適切な病院前救護を実践できるようにする。		
22-24	【授業単元】 (10/8) 高齢者外傷(大越) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 改訂第10版 救急救命士標準テキスト P.757 - 759, 658 - 664 高齢者の解剖学的・生理学的な特性を理解し、それらの損傷に対して適切な病院前救護を実践できる。			34-36	【授業単元】 (11/19) 刺咬症、スポーツ外傷、外傷に関連する特殊感染症、(境界) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 改訂第10版 救急救命士標準テキスト P.781 - 786, 701, 643、 刺咬症に対する初期対応を理解し実践できるようにする。スポーツ外傷の発生機序と病態を理解し初期救護を実践できる。疾病救急医学Ⅱで学んだ破傷風・ガス壊疽の病態について復習し初期救護を実践できるようにする。		
25-27	【授業単元】 (10/15) 小児外傷、事故予防、被虐待児症候群(大越) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 改訂第10版 救急救命士標準テキスト P.755 - 757, 655 - 657 小児外傷の特徴を理解し適切な現場救護が実践できる。具体的な事故予防を行うことができる。疾病救急医学Ⅱで学んだ被虐待児症候群について復習する。			37.38	【授業単元】 (11/26) 異物・窒息(境界) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 改訂第10版 救急救命士標準テキスト P.348-350, 808 - 811 様々な異物の病態を理解し、状況に応じた適切な病院前救護が実践できる。窒息に対する初期対応が実施できる。		
中間試験	【授業単元】 (10/22) 中間試験と解説(大越) 【授業形態】 演習 【到達目標】 外傷総論、外傷各論Ⅰ、外傷各論Ⅱ(1～12回) 国家試験方式で実施する中間テストにより、第1回～第9回で学んだ外傷各論Ⅱについての知識を再確認する。なお試験範囲には外傷総論・JPTEC e-learning・外傷各論Ⅰの全範囲を含める。			定期試験	【授業単元】 (12/3) 定期試験とその解説(大越) 【授業形態】 演習 【到達目標】 期末テストにより外傷学における自身の弱点部分を把握し、補完することで知識をより確実なものとし、国家試験に対応できる実力を身につける。		
				【評価方法について】 出席率、授業態度、小テスト、宿題やレポート課題等により、学年成績の20%、中間試験により学戦成績の20%を評価し、これらを合算して中間評価(40%)とする。定期試験により学年成績の60%を評価する。			
【特記事項】							
遅刻・欠席はせず、各授業前のテキスト熟読と授業後の復習を行うこと。曖昧な点があれば、そのままにせず積極的に質問に来ること。							

科目名 (英)	環境障害・中毒 (Insult and Poisoning Study)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
	学科・コース	救急救命士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間
						後期 木曜日 1~2時限	
【授業の学習内容と心構え】							
消防機関における消防・救急業務において、救急救命士として実務・事務に携わってきた教員が、様々な環境による障害や救急現場で遭遇する可能性のある中毒物質に対して、迅速かつ的確な判断及び処置を実施出来る救急救命士を養成するため、現場経験を踏まえた授業を実施する。専門職である救急救命士が個人・チームとして、傷病者のために何が必要であるかを各々が常に考えながら、受講してほしい。							
【到達目標】							
環境障害では、身体に影響を及ぼす様々な環境を把握すると共に、その発生機序安のみならず安全管理を含む対応までを理解し、説明できる。 中毒学では、身体に影響を及ぼす様々な環境を把握すると共に、その作用機序のみならず安全管理を含む対応までを理解し、説明できる。 シミュレーション実習と直結することを理解しつつ、現場活動との関連を説明できる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
・改訂第10版救急救命士標準テキスト ・出題分野別 問題 解答集				テキスト該当範囲で不明な語句や文章及び資料は予め調べて授業に臨むこと。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
10/31 1~2 (P788~795)	【授業単元】中毒総論 【授業形態】講義 【到達目標】 中毒学の全体像を説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
11/7 3~4 (P796~807)	【授業単元】中毒各論 【授業形態】講義 【到達目標】 救急現場で重要な中毒物質の特徴を説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
11/14 5~6 (P808~814)	【授業単元】異物、溺水 【授業形態】講義 【到達目標】 溺水の分類、機序、判断及び処置の特徴を説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
11/21 7~8	【授業単元】中間試験 【授業形態】試験、講義 【到達目標】 中毒総論・中毒各論・異物・溺水について国家試験レベルの問題を理解し、適度な速さで解答を導くことができる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
11/28 9~10 (P815~820)	【授業単元】熱中症、偶発性低体温症 【授業形態】講義 【到達目標】 熱中症・偶発性低体温症の分類、機序、判断及び処置の特徴を説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
12/5 11~12 (P824~832)	【授業単元】放射線障害 【授業形態】講義 【到達目標】 放射線障害の分類、機序、判断及び処置の特徴を説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
12/12 13~14 (P833~839)	【授業単元】その他環境障害 【授業形態】講義 【到達目標】 高山病、減圧障害、酸素欠乏症、凍傷、紫外線障害についての分類、機序、判断及び処置の特徴を説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
12/19 15	【授業単元】定期試験、解答解説 【授業形態】試験 【到達目標】 科目全範囲についての問題を理解し、適度な速さで解答を導くことができる。			【評価について】 中間試験及び定期試験による100点満点の総合評価とする。 但し、遅刻及び欠席を加味し、上記から減点をするものとする。 中間試験：学年成績の40％ 定期試験：学年成績の60％ 評価方法は学則規定に準ずる。			
【特記事項】							
専用ノートを持参すること。							

科目名 (英)	シミュレーション実習Ⅱ (SimulationⅡ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	救急救命士科	授業 形態	実習	総時間 (単位)	360時間 (8)	開講区分 曜日・時間	前期 水曜日 4時限
【授業の学習内容と心構え】 救急救命士として救急活動に従事、地域メディカルコントロール・消防学校などで指導教育を担当した教員が、知識を確認しながら現場に対応できる技術を習得する授業を行う。想定を自ら作製することで病態を理解し、現場に近い状況を実習する。 救急現場で一人でできることは限られていることを理解し、就職時にチームの一人として活躍するスキルを身に付けて欲しい。実習がメインの授業で多くの観察・処置を自習する。現場では同じ症例はない。そのため遅刻、欠席せず、すべてのアドバイスを貪欲に学んで欲しい。							
【到達目標】 知識に基づく観察からの確な判断で救急救命士に必要な技術を習得する。 解剖生理を理解し観察結果と病態を臨床推論することができる。 救急チームとして仲間と連携し、個人のスキルを上げ活動時間の短縮をはかる。 実施する観察と手技はただ覚えるのではなく、意味を理解し効果を確認する。							
【使用教科書・教材・参考書】 救急救命士標準テキスト(上下巻) 改訂2版JPTECガイドブック授業時に 配付する資料				【授業外における学習】 1年次に学んだ知識と技術を復習しておくこと。 授業終了後は学んだ技術を次回に活用できるように復習する。 実技で行った観察と標準テキストの内容を確認しておくこと。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1～6	【授業単元】年間目標の提示 【授業形態】実習 【到達目標】 2年生シミュレーションのルールを理解する チーム編成の実施			49～54	【授業単元】外因性対応 【授業形態】実習 【到達目標】 緊急処置：現場で実施しなければいけない処置を理解する		
7～12	【授業単元】外因性対応 【授業形態】実習 【到達目標】 外傷：初期評価 呼吸、脈拍の観察と意識レベルの判断			55～60	【授業単元】外因性対応 【授業形態】実習 【到達目標】 緊急処置：現場で実施しなければいけない処置を理解する		
13～18	【授業単元】外因性対応 【授業形態】実習 【到達目標】 外傷：初期評価 PrimarySurveyを短時間で実施			61～66	【授業単元】外因性対応 【授業形態】実習 【到達目標】 全身観察：観察結果から必要な処置を判断する		
19～24	【授業単元】外因性対応 【授業形態】実習 【到達目標】 外傷：初期評価 PrimarySurvey生理学的所見を短時間で実施			67～72	【授業単元】外因性対応 【授業形態】実習 【到達目標】 全身観察：観察結果から必要な処置を判断する		
25～30	【授業単元】外因性対応 【授業形態】実習 【到達目標】 状況評価：安全の確認から応援要請まで			73～78	【授業単元】外因性対応 【授業形態】実習 【到達目標】 観察結果を元に臨床推論し、適切な病院を選定し収容依頼を実施する。		
31～36	【授業単元】外因性対応 【授業形態】実習 【到達目標】 全身観察：SecondarySurveyとして解剖学的初見を観察する			79～84	【授業単元】外因性対応 【授業形態】実習 【到達目標】 継続観察・詳細観察：車内での活動と処置		
37～42	【授業単元】外因性対応 【授業形態】実習 【到達目標】 全身観察：観察方法を取得しこの臓器にダメージがあるのかを検索する。			85～90	【授業単元】外因性対応 【授業形態】実習 【到達目標】 継続観察・詳細観察：車内での活動と処置		
43～48	【授業単元】外因性対応 【授業形態】実習 【到達目標】 全身観察：正確に実施しながら時間を短縮する			【評価について】			
【特記事項】 3年生対象外傷コース(JPTEC)が開催される場合は、外因性を先行するシラバスへ変更する。その際、2年生は半数に分かれ1日を授業としてタスク参加する。							

科目名 (英)	シミュレーション実習Ⅱ (SimulationⅡ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	救急救命士科	授業 形態	実習	総時間 (単位)	360時間 (8)	開講区分 曜日・時間	後期 水曜日 4時限
【授業の学習内容と心構え】 救急救命士として救急活動に従事、地域メディカルコントロール・消防学校などで指導教育を担当した教員が、知識を確認しながら現場に対応できる技術を得る授業を行う。想定を自ら作製することで病態を理解し、現場に近い状況を実習する。 救急現場で一人でできることは限られていることを理解し、就職時にチームの一人として活躍するスキルを身に付けて欲しい。実習がメインの授業で多くの観察・処置を自習する。現場では同じ症例はない。そのため遅刻、欠席せず、すべてのアドバイスを貪欲に学んで欲しい。							
【到達目標】 知識に基づく観察からの確かな判断で救急救命士に必要な技術を得る。 解剖生理を理解し観察結果と病態を臨床推論することができる。 救急チームとして仲間と連携し、個人のスキルを上げ活動時間の短縮をはかる。 実施する観察と手技はただ覚えるのではなく、意味を理解し効果を確認する。							
【使用教科書・教材・参考書】 救急救命士標準テキスト(上下巻) 改訂2版JPTECガイドブック授業時に 配付する資料				【授業外における学習】 1年次に学んだ知識と技術を復習しておくこと。 授業終了後は学んだ技術を次回に活用できるように復習する。 実技で行った観察と標準テキストの内容を確認しておくこと。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
91－96	【授業単元】 総合想定 【授業形態】 実習 【到達目標】 シナリオ形式で状況評価から病院到着まで実施することができる。フィードバックは観察結果と判断を中心に検討する。			139－144	【授業単元】 周産期 【授業形態】 実習 【到達目標】 周産期の仕組みを理解し分娩に対応することができる。		
97－102	【授業単元】 総合想定 【授業形態】 実習 【到達目標】 シナリオ形式で状況評価から病院到着まで実施することができる。フィードバックは観察結果と判断を中心に検討する。			145－151	【授業単元】 周産期 【授業形態】 実習 【到達目標】 周産期の仕組みを理解し分娩に対応することができる。		
103－108	【授業単元】 総合想定 【授業形態】 実習 【到達目標】 シナリオ形式で状況評価から病院到着まで実施することができる。フィードバックは観察結果と判断を中心に検討する。			151－156	【授業単元】 周産期 【授業形態】 実習 【到達目標】 周産期の仕組みを理解し分娩に対応することができる。		
109－114	【授業単元】 総合想定 【授業形態】 実習 【到達目標】 シナリオ形式で状況評価から病院到着まで実施することができる。フィードバックは観察結果と判断を中心に検討する。			157－163	【授業単元】 デモンストレーション 【授業形態】 実習 【到達目標】 1年間の成果を発表する。		
115－120	【授業単元】 総合想定 【授業形態】 実習 【到達目標】 シナリオ形式で状況評価から病院到着まで実施することができる。フィードバックは観察結果と判断を中心に検討する。			163－168	【授業単元】 デモンストレーション 【授業形態】 実習 【到達目標】 1年間の成果を発表する。		
121－126	【授業単元】 総合想定 【授業形態】 実習 【到達目標】 シナリオ形式で状況評価から病院到着まで実施することができる。フィードバックは観察結果と判断を中心に検討する。			169－174	【授業単元】 資機材整備 【授業形態】 実習 【到達目標】 1年間使用した資機材の点検整備		
127－132	【授業単元】 総合想定 【授業形態】 実習 【到達目標】 シナリオ形式で状況評価から病院到着まで実施することができる。フィードバックは観察結果と判断を中心に検討する。			176－180	【授業単元】 資機材整備 【授業形態】 実習 【到達目標】 1年間使用した資機材の点検整備		
133－138	【授業単元】 周産期 【授業形態】 実習 【到達目標】 周産期の仕組みを理解し分娩に対応することができる。			【評価について】 学則の評価基準に準ずる			
【特記事項】							

科目名 (英)	総合基礎Ⅰ	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	240時間 (16)	開講区分 曜日・時間	前期 金曜日 1～2時限
学科・専攻	救急救命士科						
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 長年に渡り大学・短大・資格予備校等で公務員合格指導に携わっている教員が、数的推理＋判断推理(＋空間把握)の範囲について、基礎固めからはじめて実践力(得点力)を身につける講義を行う。							
【到達目標】 東京消防庁消防官採用試験をはじめとする公務員試験の合格を目標とする。							
【使用教科書・教材・参考書】 オープンセサミ「一般知能」、各種公務員試験の過去問から頻出問題を厳選する。				【授業外における学習】 特に、各自の反復練習に期待する。			
授 業 概 要				授 業 概 要			
【授業単元】 数的推理 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 完全理解 方程式				【授業単元】 判断推理 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 完全理解 集合・論理			
【授業単元】 数的推理 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 完全理解 割合				【授業単元】 判断推理 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 完全理解 位置関係			
【授業単元】 数的推理 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 完全理解 速さ				【授業単元】 判断推理 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 完全理解 試合・証言			
【授業単元】 数的推理 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 完全理解 確率				【授業単元】 判断推理 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 完全理解 暗号・数量・日暦・手順・道順			
【授業単元】 数的推理 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 完全理解 図形の計量				【授業単元】 空間把握 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 完全理解 平面図形・折り紙・軌跡			
【授業単元】 数的推理 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 完全理解 整数・計算パズル・規則性				【授業単元】 空間把握 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 完全理解 立体構成・展開図			
【授業単元】 判断推理 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 完全理解 順序関係				【授業単元】 空間把握 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 完全理解 投影・切断・回転体・経路			
【授業単元】 判断推理 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 完全理解 対応関係				【評価方法について】			
【特記事項】 詳細はコマシラバスをご参照ください。							

科目名 (英)	総合基礎Ⅰ	必修 選択	必修	年次	2年	
	(Preparation for the civil service examⅠ)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	240時間 (16)	前期
学科・専攻	救急救命士科					
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 専門学校の教員として、公務員試験科目(人文・社会)を担当してきた教員が、公務員試験合格のための授業を実施する。具体的には首都圏の消防官試験の合格を目指すための「日本史・世界史・地理」および「時事経済等教養」を中心としたものである。授業実施後には、自信をもって消防官試験を受験するレベルに到達することができる。						
【到達目標】 消防官試験で出題される世界史分野について、西洋史・中国史・現代史等の重要事項の知識を身につける。 消防官試験で出題される地理の分野について、地図、地形、気候等の基本知識を身につける。 消防官試験で出題される時事教養問題分野について、特に政治・経済・社会分野の知識の幅を広げ定着させる。						
【使用教科書・教材・参考書】 書名：公務員(東京アカデミー編) 人文・社会 消防官試験・過去問題				【授業外における学習】 自主的に学習計画を立て、着実に計画を実行することを期待します。特に小論文については近年の災害などからの出題が予想されます。災害のあった自治体からの情報を自身でチェックして、授業に出席してください。		
回	授 業 概 要	回	授 業 概 要			
	【授業単元】 世界史・西洋史 【授業形態】 講義 【到達目標】 イタリア史においてローマ時代から中世までの流れの知識を習得する。		【授業単元】 世界史・現代 【授業形態】 講義 【到達目標】 第一次世界大戦後の世界と、第二次世界大戦までの流れを理解する。また、その中で日本の関係性を結びつける。			
	【授業単元】 世界史・西洋史 【授業形態】 講義 【到達目標】 イギリス史において、中世から近代(産業革命)までの流れの知識を習得する。		【授業単元】 地理・地図情報と地形 【授業形態】 講義 【到達目標】 地図の種類と特徴を理解する。また、大地形の内容と具体的名称を把握し、地図で場所を確認する。			
	【授業単元】 世界史・西洋史 【授業形態】 講義 【到達目標】 フランス史において、近代・フランス革命の流れを理解し、知識を習得する。		【授業単元】 地理・小地形 【授業形態】 講義 【到達目標】 小地形の種類を全て覚え、その成立過程を理解する。また地図上でその各場所を確認し名称を覚える。			
	【授業単元】 世界史・西洋史 【授業形態】 講義 【到達目標】 ドイツ・オーストリア史において、中世～近代までの流れを理解できる。		【授業単元】 地理・気候と土壌 【授業形態】 講義 【到達目標】 気候区分(ケッペンの気候区分)を理解し、覚える。それぞれの気候区分と都市名を雨温図などから結びつけることができるレベルまで理解を深める。			
	【授業単元】 世界史・近代 【授業形態】 講義 【到達目標】 アメリカ史において、独立戦争から南北戦争までの流れを理解できる。		【授業単元】 地理・土壌と植生 【授業形態】 講義 【到達目標】 土壌の種類とその特徴を理解する。また地図上でその具体的な名称と植生を結びつけて理解できる。			
	【授業単元】 世界史・中国史 【授業形態】 演習・講義 【到達目標】 中国史において、秦の成立から漢の時代までの流れを理解できる。		【授業単元】 小論文 【授業形態】 問題演習 講義 【到達目標】 東京消防庁の試験問題から、テーマを決めて800字から200字の小論文を書いてみる。書く際に、まず設計すること、組み立てることを意識して、下書きメモを作成できるレベルになる。			
	【授業単元】 世界史・中国史 【授業形態】 演習・講義 【到達目標】 中国史において、唐の成立から清の滅亡までの流れを理解できる。		【授業単元】 小論文 【授業形態】 問題演習 講義 【到達目標】 東京消防庁の試験問題から、テーマを決めて800字から200字の小論文を書いてみる。書く際に、まず設計すること、組み立てることを意識して、下書きメモを作成できるレベルになる。			
	【授業単元】 世界史・現代 【授業形態】 演習・講義 【到達目標】 帝国主義による世界分割において、アフリカ分割と第一次世界大戦までの流れを理解できる。		【評価について】 授業ごとに小テストか課題を与え、内容理解の確認をする。また定期試験として筆記試験を行なう。小テスト・課題40点・筆記試験60点、合計100点満点で評価する。詳細は、学則規定に準ずる。			
【特記事項】 本番試験において実力を出すためには日常の生活態度が重要です。日々の学習計画を立て、規律正しい生活を意識してください。						

科目名 (英)	総合基礎Ⅰ	必修 選択	必修	年次	2年	後期
	(Preparation for the civil service examⅠ)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	240時間 (16)	
学科・専攻	救急救命士科					
【授業の学習内容と心構え】 専門学校で教員として、公務員試験科目(人文・社会)を担当してきた教員が、公務員試験合格のための授業を実施する。具体的には首都圏の消防官試験の合格を目指すための人文・社会の全範囲をマスターする。1年次からの復習をかねて、問題演習を中心としたものである。また、「小論文」の比重が高まっていることから、過去出題されている課題を例にとり、小論文作成のポイントを整理して理解することできる授業である。授業実施後には、自信をもって消防官試験を受験するレベルに到達することができる。						
【到達目標】 消防官試験で出題された人文・社会の問題について、各選択肢の論点が正確に理解できる程度までに到達させる。 消防官試験で出題される見込みのある時事問題について、テーマと内容を理解し知識を定着させるレベルに到達させる。 消防官試験の小論文問題について、題意の意図を把握し、適切な小論文記述することができるレベルに到達させる。						
【使用教科書・教材・参考書】 書名：公務員(東京アカデミー編) 人文・社会 消防官試験・過去問題			【授業外における学習】 自主的に学習計画を立て、着実に計画を実行することを期待します。予習より復習を着実にこなすことにより正確な知識を定着化させることが大切である。			
回	授 業 概 要	回	授 業 概 要			
	【授業単元】 過去問題演習 【授業形態】 演習・講義 【到達目標】 政治・経済・国語について、重要な論点を整理し把握する。		【授業単元】 小論文演習 【授業形態】 演習・講義 【到達目標】 東京・埼玉・横浜・千葉の自治体の過去小論文問題をテーマを押さえる。またテーマごとに注意点を踏まえ、800字以上書く。			
	【授業単元】 過去問題演習 【授業形態】 演習・講義 【到達目標】 政治・経済・国語について、重要な論点を整理し把握する。		【授業単元】 小論文演習 【授業形態】 演習・講義 【到達目標】 東京・埼玉・横浜・千葉の自治体の過去小論文問題をテーマを押さえる。またテーマごとに注意点を踏まえ、800字以上書く。			
	【授業単元】 過去問題演習 【授業形態】 演習・講義 【到達目標】 政治・経済・国語について、重要な論点を整理し把握する。		【授業単元】 小論文演習 【授業形態】 演習・講義 【到達目標】 東京・埼玉・横浜・千葉の自治体の過去小論文問題をテーマを押さえる。またテーマごとに注意点を踏まえ、800字以上書く。			
	【授業単元】 過去問題演習 【授業形態】 演習・講義 【到達目標】 政治・経済・国語について、重要な論点を整理し把握する。		【授業単元】 過去問題演習 【授業形態】 演習・講義 【到達目標】 日本史、世界史、地理について、東京消防庁の過去問題を演習し、重要な論点を整理し理解する。			
	【授業単元】 過去問題演習 【授業形態】 演習・講義 【到達目標】 政治・経済・国語について、重要な論点を整理し把握する。		【授業単元】 過去問題演習 【授業形態】 演習・講義 【到達目標】 日本史、世界史、地理について、東京消防庁の過去問題を演習し、重要な論点を整理し理解する。			
	【授業単元】 時事問題演習 【授業形態】 演習・講義 【到達目標】 テーマ別時事問題 厚生・労働・文部科学・社会問題		【授業単元】 公務員試験 模擬試験 【授業形態】 問題演習 解説講義 【到達目標】 小論文を除く、模擬問題演習を実施する。			
	【授業単元】 時事問題演習 【授業形態】 演習・講義 【到達目標】 テーマ別時事問題 厚生・労働・文部科学・社会問題		【授業単元】 公務員試験 模擬試験 【授業形態】 問題演習 解説講義 【到達目標】 小論文を除く、模擬問題演習を実施する。			
	【授業単元】 時事問題演習 【授業形態】 演習・講義 【到達目標】 テーマ別時事問題 厚生・労働・文部科学・社会問題		【評価について】 授業ごとに小テストか課題を与え、内容理解の確認をする。また定期試験として筆記試験を行なう。小テスト・課題40点・筆記試験60点、合計100点満点で評価する。詳細は、学則規定に準ずる。			
【特記事項】 知識を定着させるには復習が大事である。繰り返し繰り返し学んだ内容を反復する持久力を意識して復習すること。						

科目名 (英)	総合救急医療Ⅰ (Preparation for The National ExaminationⅠ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	救急救命士科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60時間 (4)	開講区分	後期
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 消防機関において救急救命士としての経験および高度救命救急センターでの研修実績があり、他の教育機関においても広く教育活動に携わってきた教員が、疾病・傷病の緊急度・重症度判定し、適切な救急処置を行うための判断を具体的かつ総合的に提示し、ミクロな視点としての生化学的知識を重視し、救急処置の背景・エビデンスについても意識づけたい。また、マクロな視点として、救命士の活動を支える救急医療体制や社会保障制度についても触れ、学生が救急救命士の社会的な役割を実感できるような講義にしたい。							
【到達目標】 ①傷病者の症状や重症度・緊急度を、病態生理学・生化学的な知識をもとに説明することができるようになる。 ②正解の根拠、不正解の根拠ともに説明することができるようになる。 ③テキストや参考書の使い方、反復学習の仕方を習得し、自己学習を習慣化できるようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
救急救命士標準テキスト第10版 救急救命士国家試験対策 出題分野別国試問題・解説集 A・B問題編				問題に用いられている言葉の完全理解をめざすため、事前に言葉の意味を確認しておくこと。1年生のときに用いた生化学や解剖学など、関連する資料を持参すること。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1・2	【授業単元】人体の構造と機能① 【授業形態】講義・小テスト 【到達目標】 ①体液の組成を説明できる。 ②末梢神経の種類と神経伝達物質、中枢、効果器の関係を説明できる。 ③中枢神経(大脳・間脳・脳幹・小脳・脊髄)の役割を説明できる。			17・18	【授業単元】救急症候学② 【授業形態】講義・小テスト 【到達目標】 ①錐体路と麻痺との関係を説明できる。 ②めまいの性質から中枢性か末梢性かを分けることができる。 ③呼吸困難の特徴と病変部位(上気道・下気道)を結び付けることができる。		
3・4	【授業単元】人体の構造と機能② 【授業形態】講義・小テスト 【到達目標】 ①視覚器・聴覚器を絵に描き、構造を説明できる。 ②気管挿管・気管切開に必要な呼吸器の構造を説明できる。 ③酸素解離曲線について説明できる。			19・20	【授業単元】救急症候学③ 【授業形態】講義・小テスト 【到達目標】 ①血圧調節のメカニズムと失神との関係を説明できる。 ②動悸と不整脈との関係を説明できる。 ③腹痛(体性痛・内臓痛)の性質と代表疾患を説明できる。		
5・6	【授業単元】人体の構造と機能③ 【授業形態】講義・小テスト 【到達目標】 ①心音と音の成分について説明できる。 ②肝臓と脾臓の機能について説明できる。 ③糖質代謝と脂質代謝について、ホルモンの働きを含め説明できる。			21・22	【授業単元】疾病救急医学① 【授業形態】講義・小テスト 【到達目標】 ①頭蓋内出血の部位と症状との対応関係を説明できる。 ②髄膜炎の症状を説明できる。 ③代表的な上気道疾患と下気道疾患を挙げ、症状との関係を説明できる。		
7・8	【授業単元】疾病の成り立ちと回復の促進① 【授業形態】講義・小テスト 【到達目標】 ①感染経路別に代表的な感染源を挙げることができる。 ②感染経路別の対策について説明できる。 ③代表的な感染症の感染症類型を示すことができる。			23・24	【授業単元】疾病救急医学② 【授業形態】講義・小テスト 【到達目標】 ①虚血性疾患でみられる不整脈の特徴を説明できる。 ②致死性不整脈の種類と波形を図示して説明できる。 ③動脈血栓症と静脈血栓症の発症要因と症状の違いを説明できる。		
9・10	【授業単元】疾病の成り立ちと回復の促進② 【授業形態】講義・小テスト 【到達目標】 ①高張性・低張性脱水の特徴と、分泌されるホルモンの関係を説明できる。 ②創傷治癒過程について説明できる。 ③染色体異常について説明できる。			25・26	【授業単元】疾病救急医学③ 【授業形態】講義・小テスト 【到達目標】 ①緊急度の高い消化器疾患を挙げることができる。 ②消化性潰瘍・肺炎を消化酵素との関係から説明できる。 ③尿管結石の発生部位と症状との関係を説明できる。		
11・12	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			27・28	【授業単元】疾病救急医学④ 【授業形態】講義・小テスト 【到達目標】 ①Ⅰ型アレルギーのメカニズムを踏まえ、アナフィラキシーショックを説明できる。 ②食中毒の原因菌の生息域・潜伏期について説明できる。 ③高齢者の身体的な特徴と疾病との関係を説明できる。		
13・14	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			29・30	【授業単元】定期試験、解説 【授業形態】試験 【到達目標】 ①苦手な領域を意識づけることができる。 ②正しい答えと考え方を記録し、反復できる。		
15・16	【授業単元】中間試験、救急症候学① 【授業形態】試験 【到達目標】 ①意識障害の原因(脳神経or代謝性疾患)による症状の違いを説明できる。 ②頭痛の原因による症状の違いを説明できる。 ③重症度の高い痙攣について説明できる。			【評価方法について】 中間試験(40点)と定期試験・模試(60点換算)の合計100点満点で評価する。授業への参加度及び小テストの点数、提出物等を加算する場合もある。評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】 できるだけ遅刻や欠席はしないこと。学生の講義への参加度は評価の参考とする。							